



映画監督山下大裕の2020年全国公開への道

～全国初！地域おこし協力隊映画制作プロジェクト 2020 企画書～



2020 年までに 全国公開映画を撮る

という9年越しの夢を
叶える時が来た。

2011年1月1日の早朝、当時18歳だった私はそう公言し映画界への一步を踏み出しました。目標を声に出し続けた結果、今では『2020 年全国公開』で検索すると私のHPがトップに表示されます。あれから9年…。当時全く予想もできなかった形で今日に至り、まもなくその夢が叶おうとしています。

はじめに

初めまして。本土最南端の映画監督、山下大裕（やました・だいすけ）と申します。1992年6月9日生まれ福井県敦賀市出身の27歳で、2017年7月より今回の映画制作のため鹿児島県南大隅町に移住しました。敦賀高校卒業後、日本映画大学映画学部脚本演出コースに入学した私は大学2年になった20歳の冬に地元敦賀を舞台とした映画『SNOWGIRL』（2013年・62分 ※YouTube 視聴可）を撮りました。その後、映画『弥生の虹』（2015年・74分）や敦賀市観光ショートムービー『いつか、きらめきたくて。』（2017年・26分 ※YouTube 視聴可）のほか、総務省『第5回地域おこし協力隊全国サミット』オープニングムービーや敦賀市制80周年記念映像などを手掛けました。また2019年には若手映画監督界隈で話題になった平成最後の日に映画を撮るプロジェクト『#平成最後映画』に監督の一人として参加し、唯一のドキュメンタリーとして自身の祖父母の平成最後の日を追った『変遷』を手掛けています(MOOSIC LABや元町映画館、シアターセブン等で上映)。

そんな私にはかねてから感じている大きな疑問がありました。それは『従来の映画制作のように、制作者が短期間その地域を訪れるだけで本当にその地域と向き合った映画づくりができるのだろうか？』ということです。そこで私は『いきなり映画を撮るのではなくまず自分が町民になろう』『住んでこそ見えるものを大切に映画を撮ろう』という思いから2017年7月に今回の作品の舞台として考えていた鹿児島県南大隅町（母方の実家）へ移住し、同町の地域おこし協力隊に着任しました。協力隊としての在任期間中は映画に直結することを行うというよりも自身の得意分野を活かして町内の伝統行事、人、自然などを映像に記録し後世に遺せるアーカイブを作することに専念していました。またその間、地域イベントにスタッフや参加者として関わったり、集落行事や交流会、地域清掃や草払いなどに参加し自分を南大隅町色に染め上げていきました。



過去制作映画



前代未聞!? 全国の過疎地で
一斉プレミア上映を実施!

2020.11.3

[火・文化の日]

プレミア上映決定!

令和の才能を求む!! 2月16・17日東京オーディション開催!

『地域おこし協力隊』を題材とした 全国初の作品を『地域おこし協力隊』OBの監督が撮る

私が今回制作する作品は『地域おこし協力隊』を題材とした全国初（※）の映画となります。地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において地域外（主に都市部）の人材を受け入れ各々の得意分野を活かしながら活動を行ってもらい地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした総務省による制度で 2009 年から現在に至るまで全国各地で導入されています。（現在の隊員数は約 6,000 名）

※地域おこし協力隊を題材としたドラマは 2012 年に『運命のヒマワリ〜ボクの人生、リニューアル〜』、2019 年に長崎発地域ドラマ『かんざらしに恋して』が放映されていますが、地域おこし協力隊を題材とした映画は現時点ではありません。

私が地域おこし協力隊を題材とした映画を撮ろうと決めたのは、鹿児島移住から半年のタイミングでした。当時の私は前述の通りほぼ毎日のようにカメラを持って町内に繰り出しており、町のあらゆるものを映像に記録する中で映画の題材探しも並行して行っていました。そんなある日ふと立ち止まって考えた時、そもそも自分自身が実際に隊員として活動している地域おこし協力隊というものの自体にもものすごく人間ドラマが詰まっている

ということに気がついたのです。私は地域おこし協力隊着任後、町内だけでなく町外にも足を運び鹿児島県内の他の自治体の協力隊と会う中でいろいろな話を聞きました。元気に活動しているように見える人も、実際の現場では多くの壁にぶつかり、時に孤独になりながら精一杯生きていることを知りました。また協力隊の特性を活かし地域活性化に着実に近づけている自治体がある一方で、協力隊を行政の仕組みの中に押さえ込んでしまっている自治体もあり、協力隊が悩みに悩んだ結果自ら町を去ってしまうということもありました。

私は地域おこし協力隊たちが何を思い、どんなことを感じながら日々暮らしているかを映画の中でより深く知ってもらい、日本全国の過疎化が進む地域で協力隊制度がうまく活用されるきっかけとなる作品を作りたい、そして地域おこし協力隊制度が自分自身と向き合い本当にやりたいことをするために挑戦できる選択肢としてあり続けて欲しいという思いから、協力隊 OB として全国初の地域おこし協力隊を題材とした映画を撮ることに決めました。



映画の舞台となる
鹿児島県南大隅町

日本の本土最南端『佐多岬』を有する南大隅町は、人口約 7,000 人の小さな町です。大河ドラマ『西郷どん』の影響で『雄川の滝』には全国から観光客が訪れます。一方で高齢化率は鹿児島県下で最も高い 48.24% を記録し人口減少社会の新しい地域づくりが求められています。南国情緒あふれるこの町はとても穏やかで、私自身も南大隅暮らしに大変満足しています。

47 都道府県全ての 地域おこし協力隊を取材すべく 50 日間の日本一周旅を敢行！

全国初となる地域おこし協力隊の映画を撮るにあたり、鹿児島県内の協力隊の話だけを参考にして制作に臨むというのは一映画監督として納得がいかず、2019 年 3 月 3 日から 4 月 21 日までの 50 日間、軽自動車を 4 人で運転しながら 47 都道府県全ての地域おこし協力隊を 1 日 1 都道府県のペースで訪ね、200 名を超える協力隊に着任の経緯や活動内容、その中で印象に残っている喜怒哀楽エピソードなどの取材を行いました。取材の中で得られた濃い実話も盛り込みながら、オリジナルのフィクション映画として制作に臨みます。



前代未聞！？全国の過疎地で一斉プレミア上映を実施！

地域おこし協力隊は東京一極集中時代にありながらも自ら拠点を移し地方で奮闘しています。私はある時そんな彼らの姿を描いた全国初の作品を都市部から流通させる形にしてしまっても良いのだろうかと考えました。完成した作品は全国の地域おこし協力隊とその周りで彼らを支えている地域の方々へ一番に届けたい。そんな思いから本作は映画業界の常識を覆し、都市部ではなく地方から上映展開を行うことに決めました。

2020.11.3

[火・文化の日]

プレミア上映決定！

お問合せ先

DYC エンターテインメント 代表 山下 大裕

【公式サイト】<https://2020eiga.com> 【公式 Facebook ページ】<https://www.facebook.com/2020eiga>

MOBILE：080-1965-8679（不在の際は留守番電話をご活用ください） MAIL：dycmovie@gmail.com